

ツール・ド・のと あす号砲

銀輪の祭典

準備万端

発着点 内灘で会場設営

第22回「ツール・ド・のと400」能登半島一周サイバル・サイクル2010（同実行委、具体協、県自転車競技連盟、北國新聞社主催）は18日から3日間、能登半島を舞台に石川、富山両県で行われる。40都道府県から1412人が出場し、バルセロナ五輪トラックレース代表で競輪の小嶋敬二選手（金沢市在住）もサポート隊のメンバーとして伴走する。16日は、約410キロのコースの発着点となる内灘町の県立自転車競技場でのぼり旗の設置など会場設営が行われた。



大会を前に準備されるのぼり旗

内灘町の県立自転車競技場

大会は、3日間で全がある。サポート隊は分などをアドバイスし行程に挑むチャンスも。出場選手らと一緒に自マナーなども注意する。コースと一日コース、転車で走り、ペース配役割で、小嶋選手のほ



唐見実世子さん

か、北五輪トラックレース代表で競輪の北唐見さんら6人が、津留翼選手、アテネ五輪ロードレース代表の唐見実世子さんら約30人が務める。

きようサイクルクリニック開催
大会前日の17日は、同競技場で午後1時～まで。

「能登の魅力、発見を」

サポート隊の小嶋選手意欲



16年ぶりの大会参加に意気込む小嶋選手
＝北國新聞社

小嶋選手は16日、北ター競輪が今年は例年より早く開催されたので多くの人に完走してもらえようサポートしたい」と、1994年の第6回大会以来16年ぶりに参加する大会を前に力を込めた。小嶋選手は、同時期に行われる「オールス

「県外の参加者には能登のすばらしさを『新発見』、県内の参加者には『再発見』してもらえよう頑張った」と意気込んだ。